

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3390200222		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム あなたのふるさと 萌 (1ユニット)		
所在地	倉敷市黒石 377-1		
自己評価作成日	平成23年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200222&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室
訪問調査日	平成23年9月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・倉敷市街地に近い場所にあり、周辺は、畑や山など自然の風景の中に民家が点在する静かな環境である。
 ・隣接の民家との交流や、ボランティア受け入れの機会を増やしており、また、同事業所のグループホーム・就労施設・児童デイサービスの施設利用者とも交流を行っている。
 ・季節折々の行事も行っており、年に1回、外部の方を招いてまつりを盛大に行っている。
 ・昔の古い家をイメージしており、建物の各所には昔が懐古できるような物を配置している。
 ・広い敷地があり、車椅子の方も外に出やすいように、通路、車椅子対応可能なトイレも整備しており、利用者が花壇や畑で活動したり、散歩や日向ぼっこを楽しんだりできる環境を整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温かい職員と周囲の自然に囲まれ、利用者はくつろいだ日々を過ごしている。
 職員は利用者と共に過ごす時間を大切に、いつも笑顔で穏やかに接している。例えば食事では、利用者に盛り付けをお願いし、感謝の言葉をかけながら見守り、準備が完了すると、職員もテーブルにつき一緒に食べる。食後もしばらくは余韻を楽しむように腰かけたまま談笑する。利用者は一心に作業したり、おいしそうに食べたり、冗談を言って笑ったりと、生き生きとしていた。
 快適で安全な空間作りにも力を入れている。窓や床、トイレ、浴室、洗面台から棚の上まで掃除が行き届き、こざっぱりとしている。庭の休憩所や舗道もきれいに保たれ、木々の緑や季節の花々を愛でながら、散歩を楽しめる。
 また、連絡や記録の重要性が認識され、全職員で共有し、より良いサービスにつなげられるよう活用している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、理念を一つ一つ取り上げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見を共有し、実践につなげている。	理念の具現として、この1年間は「接遇の向上」を目標に掲げた。定期的に目標達成状況を自己評価し、会議で検討することで、職員同士でも意識合うようになり、今まで以上に言葉遣いや態度が丁寧になった。	理念が長文でやや難解である。職員が説明しやすく、利用者、家族や外部の人に親しんでもらえるように、理念をわかりやすく短い言葉で言い表せるよう、期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催している萌祭りには、外部の方も多数参加しており、学区内の幼稚園や近隣の住民をはじめ、就労継続支援「よろこびの庭」利用者とも交流を図っている。	代表者の自宅が近く、事業所ぐるみで近所付き合いをしている。今年の「萌祭り」には近隣住民等、200名が詰めかけた。すぐ近くの福祉作業所「よろこびの庭」とは、利用者が互いに掃除をしたり遊び相手を務めたりして、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などで、認知症ケアについて、実践していて困難な事例など報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、自治会長、家族代表、愛育委員、高齢者支援センター等の方々に出席していただき、サービス状況の報告、説明を行い、意見交換をしている。また、萌だよりも配布している。	自治会会長など地域の代表が毎回参加し、事業所の状況を把握してもらい、地元の協力と理解を深める場となっている。参加者と避難訓練をしたり、地元の地形が災害に及ぼす影響を教え合ったりすることもある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報を提供したり、分からない事などは聞いて、指導を仰いでおり、協力関係を築くよう取り組んでいる。	月1回の空き情報など、市が求める情報を連絡する。市から来た文書類にわかりにくい部分があれば、尋ねて確認している。また、市が実施する介護研修に参加している。地域包括支援センターには運営推進会議に毎回参加してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、家族や知人の方が面会しやすい環境を整えている。また、定期的に勉強会を開催し、意識づけを行い、ケアの実践に役立てている。	身体拘束排除の勉強会を定期的に関中中で、拘束につながる原因の除去が先決との考えに至り、実践している。例えば、玄関は夜間以外開錠され、外に出ようとする利用者がいれば、職員が付き添って散歩し、満足してもらおうと共にその原因を探る。マニュアル類も整備されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、その報告を兼ねて、定期的に勉強会を開催し、意識づけを行い、ケアの実践に役立てている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明を行い、質問・疑問などにお答えし、同意を得られた上で、サービスを提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見・要望などいつでも受け入れできるようにしており、家族からは面会時等に意見を伺うようにしている。また、意見等の申し出があった場合は、早急に対応するよう努力している。	「職員の名前がわからない」との意見に、翌月には名前を刺繍したエプロンを新調し、全職員が着用するという具合に、とにかく対応が早い。苦情・意見を真摯に受け止め、代表者を交えて解決策を講じ、すぐに実行に移す体制ができあがっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、毎月1回ミーティングを開催し、意見交換を行っている。	全職員と代表者とが参加する月1回のミーティングでは活発に意見が交換され、代表者は必要な予算を組むなど、積極的に意見や提案を取り入れている。また、代表者は日々現場を回り、職員の声に耳を傾けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、職員一人一人を把握している。また、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、それらの研修報告は勉強会で発表し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規ホーム立ち上げの同業者に、当ホームでの実習及び勉強会を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には事前に面談を行い生活歴等の情報収集をし、それらを参考にホームでどのように過ごして頂くか暫定プランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築けるように、相談や要望を傾聴し、出来るだけそのことについて対応していただけるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、利用者の心身の状態に異変、救急事態が生じた場合の対応等を説明し、同意をいただいている。また、利用者や家族の思い、状況等を確認し必要なサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員としての立場で利用者を支援し時には家族のように接し、また、人生の先輩としての敬いの気持ちを持って、お互いが和やかな生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子や状態をこまめに報告・相談し、安心して預けて頂けるような関係を築き、また、利用者との関わりを継続して頂くため短時間の外出や、外泊の協力も呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の入居前から利用されていた病院を定期的に受診して頂き、また以前から通われていた美容院に行かれたりと個人の生活習慣を尊重している。	理念で掲げた「生活の継続性」を重視し、入居前の生活環境把握に力を入れている。馴染みの病院や美容院へは、家族の協力の元、通い続けられるよう支援している。また、玄関を開錠し、家族や知り合いが来訪しやすい雰囲気を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送り時間に利用者の情報共有を行い、食事・余暇時間には職員が間に入り利用者同士の関係が上手くいくようにしている。また気の合う利用者同士、楽しく過ごせる場面作りを援助している。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養・老健へ入居されたり、病院へ入院された利用者にも退去後面会に行ったり、家族からの相談にも対応している。また施設同士の情報共有も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で、利用者の思いや意向を聞きだすように努力しているが本人から聞きだすことが困難な場合には、家族から情報を得るようにしている。	職員が柔らかな物腰で利用者とゆっくり過ごす中で、利用者は気軽に思いを伝えている。家族からの情報も得ながら、各人の意向に近づけるよう、日々、職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活リズムに沿ったプランを作成し、定期的に会議を開き、職員で情報共有し、ケアの改善に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個人の生活記録に、プランに沿った生活状況や、バイタル・食事量など記載し、職員全体で現状把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヵ月ごとにモニタリングをし、計画の立て直しを検討している。毎月のミーティングでも一人ひとりについて新たなニーズの有無を確認し、見直しの前には家族の意向を取り入れ計画に反映させている。	利用者の意向や心身状態など、日々の観察で得たことを介護・看護記録として職員間で共有している。月1回のミーティングでは活発に意見を出し合い、さらに家族の意向も積極的に取り込み、介護計画を練っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの生活記録に、生活状況や実践結果など記載し、介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアする上で、困難なことや、問題が発生した場合は、職員で話し合い、家族に報告し、意向を取り入れ、問題解決できるよう努力している。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加され周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。また、希望によって訪問理容サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前に主治医の確認を行い、入居後も継続できるようにしている。また、家族が受診付添い困難な時には職員が代行している。受診時には情報提供し、受診結果は職員全員で情報を共有している。	今までのかかりつけ医を継続している。家族、職員のどちらが受診の付き添いをするかは家族に決めてもらうが、緊急時はスタッフが付き添う。結果を家族に報告すると共に、「医療機関受診記録」に残し、全職員で共有している。	健康、医療面に不安を感じる家族がいるので、受診結果や事業所の看護体制などの情報が家族にきちんと伝わるよう、伝達方法の工夫を期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握してもらい、必要に応じて処置や、相談など受けてもらっている。また、受診時には情報提供書を作成してもらい、担当医に分かりやすく説明している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、定期的に入院先へ訪問し、利用者に面会している。担当看護師や相談員に状態を尋ね、退院してからの介護プラン作成に役立てている。退院日については、相談の上、決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から状態変化に気づくよう努め、早急に対応できる様にしている。ご本人・家族の意向を聞きながら随時、相談・対応を行っている。また、契約時に、重度化した場合や終末ケアについての方針の説明を行い、同意を得ている。	利用者、家族には入居時に「重度化した場合の同意書」を提示して説明し、同意を得ている。希望すれば、事業所での看取りを本人の意向に最大限に沿えるよう、「終末ケアマニュアル」にしたがって行う。すでに看取りも経験している。日頃から看護師を中心に利用者の状態把握に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、夜間の緊急時対応について、マニュアルを配置し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練をし、消防署への連絡の仕方・消火器の使い方など行っている。また、地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼び掛けている。	避難訓練を実施し、災害対策マニュアル、緊急連絡網を整備しているが、全職員の熟知までは至っていない。地域の人々とは運営推進会議を通じ、実際に消火器を使った消防訓練を行い、協力体制を築いている。	特に火災に対しては、避難訓練だけに頼らず、日頃の反復練習や確認により、全職員が適切な対応をできるよう、期待したい。

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重し、適切な言葉かけを心がけている。慣れ合いになっていないか、職員同士で確認、注意を行っている。	利用者を「さん」付けで呼び、丁寧な言葉をつかい、穏やかな口調で声をかけている。膝を突いて話すなど、目線が利用者より高くないよう、気を配っている。また、機関誌への顔写真掲載の事前承諾など、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者がやりたいと思う事をできる限り優先し、その都度対応している。また、飲みたい物など複数の選択肢を提案して、利用者が自分で決める場面を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に考慮しながら、個々のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居後もお化粧の希望がある時には継続できるよう援助している。ご自分でする事が難しい方にも、鏡を見ながら、身だしなみの援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事形態を考慮し、パン食、普通食、ミキサー食と個々に合った物を提供している。手作りの日を増やし、バリエーションにも配慮している。食事の準備や盛り付け等出来る事を役割プレーとして行っている。	多くの利用者が積極的に準備や後片付けを手伝っている。布製ランチョンマットを敷き、陶器製食器に各人の好みや状態に応じた盛り付けにし、おいしく食べられるよう工夫している。職員は利用者と共にテーブルを囲み、食後もゆったり談笑する。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体格や病歴の把握をし、栄養のバランスや食事量も考慮している。毎食、食事摂取量のチェックを行い、水分も十分摂取できるよう声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は全員に歯磨きを支援し、歯磨きが難しい方には、ガーゼ等を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。義歯の方は2日に1回義歯洗浄液施行し、定期的な歯ブラシの交換、コップは週1回消毒を行っている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、必要に応じて介助を行っている。また、パット類も状態に合わせて、検討している。	介護日誌に排泄を記録し、そのパターンをつかんで、できる限り一人で排泄できるように支援している。夜間はトイレ誘導するか、尿とりパッドの交換にするかを、希望に応じて実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、出来る限り下剤は服用せず、腹部マッサージやセンナ茶飲用にて対応している。センナ茶の量は個々に合わせながら、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴を支援し、希望があれば毎日の入浴も行っている。入浴拒否がある方には、日や時間、職員を変えるなどしながら支援をしている。	入浴は概ね1日おきで、10～16時の間のできる限り希望に添えるようにしている。入浴時は一緒に歌を歌ったりして、リラックスしてもらう。6月に導入した入浴装置は車椅子でも肩までゆったりお湯に浸かれるので、利用者の表情がほころぶ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調に考慮して、自室で休息されたり、車椅子の方にも臥床時間を設け、体の負担を軽減して頂いている。夜間不眠の方には日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースにて保管し、薬の説明書は個人ファイルと看護記録ファイルに綴っており、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の準備、服薬時、服薬後には複数の職員でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の入居前の生活歴を把握し、掃除、洗濯など個々に合った役割を実施している。余暇活動では、希望に沿ったものや、昔の趣味等取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的ドライブ等に出かけ、天気の良い日や要望のある日には散歩も実施している。家族の協力の元に外出されている方もおられる。	天候が良ければ、毎日、庭や敷地内の畑、近くの池を散歩する。希望を聞きながら、週に1度以上は車で出かけ、買い物や外食、散策を楽しんでもらう。外の空気や風景に触れる機会を多く持てるようにしている。家族と一緒に外出する利用者もいる。	

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理させて頂いている。買い物の希望があれば、職員と一緒に買い物に行けるよう援助している。買い物時の支払いは、個々によって異なるが、できる方にはご自分でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話や手紙を出せるよう支援を行っている。携帯電話を使用されている方もおられ、自室にて使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーにしており、生活しやすいように工夫している。コミュニケーションがとれるようソファも設置し、ソファスペースには昔を懐古できるような本や、写真を置いており、いつでも見られるようにしている。	隅々まで掃除が行き届き、整理整頓された室内はこざっぱりしている。みんなで作るユーモアにあふれた月替わりの壁画は、楽しさと季節感を演出している。よく手入れされた広い庭の、緑の木々や色とりどりの季節の花々は、生活の潤いと癒しを与えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの数を増やし、席替えをして、気の合う利用者同士で過ごして頂いている。ソファを設置し、くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活品などを持ってきて頂き、個人に合った環境に配慮している。家族の写真や本人の作品などそれぞれ飾り付けをしている。	備え付けのベッド以外は、たんす、机、ドレッサーなど思い思いに持ち込んで、部屋づくりをしている。職員は写真や本人の作品の飾り付けを手伝ったり、掃除や整頓を通じて、快適に安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には本人の顔写真を飾り、分かりやすくしている。利用者の身体状況に合わせ、ベッドや家具の配置を考慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200222		
法人名	株式会社 浅野工務店		
事業所名	グループホーム あなたのふるさと 萌 (2ユニット)		
所在地	倉敷市黒石 377-1		
自己評価作成日	平成23年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390200222&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年9月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングでは、理念を一つ一つ取り上げて、職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見を共有し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催している萌祭りには、外部の方も多数参加しており、学区内の幼稚園や近隣の住民をはじめ、就労継続支援「よろこびの庭」利用者とも交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や家族会などで、認知症ケアについて、実践していて困難な事例など報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、自治会長、家族代表、愛育委員、高齢者支援センター等の方々に出席していただき、サービス状況の報告、説明を行い、意見交換をしている。また、萌だよりも配布している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホームの空き情報を提供したり、わからない事などは聞いて、指導を仰いでおり、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠しておらず、家族や知人の方が面会しやすい環境を整えている。また、定期的に勉強会を開催し、意識づけを行い、ケアの実践に役立っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に参加し、その報告を兼ねて、定期的に勉強会を開催し、意識づけを行い、ケアの実践に役立っている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度については、代表者が家族からの相談に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明を行い、質問・疑問などにお答えし、同意を得られた上で、サービスを提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見・要望などいつでも受け入れできるようにしており、家族からは面会時等に意見を聞くようにしている。また、意見等の申し出があった場合は、早急に対応するよう努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と共に、毎月1回ミーティングを開催し、意見交換を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も頻繁に現場に来ており、職員一人一人を把握している。また、個々の相談にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。また、それらの研修報告は勉強会で発表し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規ホーム立ち上げの同業者に、当ホームでの実習及び勉強会を行っている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前には事前に面談を行い生活歴等の情報収集をし、それらを参考にホームでどのように過ごして頂くか暫定プランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築けるように、相談や要望を傾聴し、出来るだけそのことについて対応しているように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時、利用者の心身の状態に異変、緊急事態が生じた場合の対応等を説明し、同意をいただいている。また、利用者や家族の思い、状況等を確認し、必要なサービスにつなげるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員としての立場で利用者を支援し、時には家族のように接し、また、人生の先輩としての敬いの気持ちを持って、お互いが和やかな生活が出来るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の様子や状態をこまめに報告・相談し、安心して預けて頂けるような関係を築き、また、利用者との関わりを継続して頂くため短時間の外出や、外泊の協力も呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人の入居前から利用されていた病院を定期的に受診して頂き、また以前から通われていた美容院に行かれたりと、個人の生活習慣を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	申し送りの時間に利用者の情報共有を行い、食事・余暇活動には職員が間に入り、利用者同士の関係が上手くいくようにしている。また、気の合う利用者同士、楽しく過ごせる場面作りを援助している。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養・老健へ入居されたり、病院へ入院された利用者にも退居後、面会に行ったり、家族からの相談にも対応している。また、施設同士の情報共有も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のかかわりの中で、利用者の思いや意向を聞きだすように努力しているが本人から聞き出すことが困難な場合には、家族から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人個人の生活リズムに沿ったプランを作成し、定期的に会議を開き、職員で情報共有し、ケアの改善に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、個人の生活記録に、プランに沿った生活状況や、バイタル・食事量など記載し、職員全体で現状把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね3ヶ月ごとにモニタリングをし、計画の立て直しを検討している。毎月のミーティングでも一人ひとりについて新たなニーズの有無を確認し、見直しの前には家族の意向を取り入れ計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとの生活記録に、生活状況や実践結果など記載し、介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアする上で、困難なことや、問題が発生した場合は、職員で話し合い、家族に報告し、意向を取り入れ、問題解決できるよう努力している。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加され周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築いている。また、希望によって訪問理容サービスを利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス開始前に主治医の確認を行い、入居後も継続できるようにしている。また、家族が受診付き添い困難な時には職員が代行している。受診時には情報提供し、受診結果は職員全員で情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に利用者全員の状態を把握してもらい、必要に応じて医療的な処置や、相談など受けてもらっている。また、受診時には情報提供書を作成してもらい、担当医に分かりやすく説明している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中には、定期的に入院先へ訪問し、利用者に面会している。担当看護師や相談員に状態を尋ね、退院してからの介護プラン作成に役立てている。退院日については、相談の上、決定している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から状態変化に気づくよう努め、早急に対応している。ご本人・家族の意向を聞きながら随時、相談・対応を行っている。また、契約時に、重度化した場合や終末ケアについての方針の説明を行い、同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を開催し、夜間の緊急時対応について、マニュアルを配置し、全ての職員が対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に避難訓練をし、消防署への連絡の仕方・消火器の使い方など行っている。また、地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼び掛けている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	写真掲載については同意を得ており、面会簿は個人ファイルに入れ、プライバシーの保護に努めている。利用者を尊重し、一人ひとりに合った適切な言葉かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態に合わせ、表情や行動にも気配りし、本人の思いを話し易く、または答えを選び易いような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に考慮しながら個々のペースに合わせた生活が送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者もお化粧の希望がある時には持続できるよう援助している。ご自分で出来ない方にも鏡を見ながら身だしなみの援助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事等では外食の機会を作ったりおやつ作りを定期的に行っており、利用者全員が参加できる支援を行っている。また、食器拭きや盛り付け等、出来ることを役割プレーとして行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体格や病歴の把握をし、栄養のバランスや食事量も考慮している。毎食、食事摂取量のチェックを行い、水分も十分摂取できるよう声かけを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は全員に歯磨きを支援し、磨き残しが無いかもチェックを行っている。義歯の方は毎日、義歯洗浄施行し、定期的な歯ブラシの交換・コップは週1回消毒を行っている。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行っている。必要に応じて介助を行っており、パット類も状態に合わせて検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、出来る限り下剤は使用せず、腹部マッサージやセンナ茶飲用にて対応している。センナ茶の量は個々に合わせながら、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2日に1回のペースで入浴を支援し、希望があれば毎日の入浴も行っている。入浴拒否がある方には、日や時間、職員を変えるなどしながら支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや体調に考慮して、自室で休息されたり、車椅子の方にも臥床時間を設け、体の負担を軽減して頂いている。夜間不眠の方には日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースにて保管し、薬の説明書は個人ファイルと看護記録ファイルに綴っており、職員がいつでも確認できるようにしている。薬の準備・服薬時・服薬後には、複数の職員でチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の入居前の生活歴を把握し、掃除・洗濯など個々に合った役割を実施している。余暇活動では、希望に沿ったものや昔の趣味等取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的にドライブ等に出かけ、天気の良い日や要望のある日には散歩を実施している。家族の協力にて外出されている方もおられる。		

グループホームあなたのふるさと萌

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はこちらで預らせて頂いているが、買いたい物があれば、職員と一緒に買い物に行けるよう援助している。買い物等の支払いは、個々によって異なるが、出来る方にはご自分でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話を使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーにしており、生活し易いよう工夫している。畳のスペースもあり、また、レトロな家具・調度品を取り入れている。季節感のある壁画を毎月、利用者と作成し、飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル数を増やし、席替えをして気の合う利用者同士で過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活品などを持ち込んで頂き、個人に合った環境に配慮している。家族の写真や本人の作品などそれぞれ飾り付けをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には本人の顔写真やぬいぐるみを飾り分かり易くしている。またトイレにも分かり易いよう表示をしている。利用者の身体状況に合わせ、ベッドや家具の配置を考慮している。		